

令和4年度の学校評価

本年度の重点目標 (課題)	1 スクール・ポリシーに位置付けた「本校における学び」の充実 2 ICT教育の推進 3 人間教育の充実 4 本校の魅力発信に係る取組の充実 5 校務分掌のブロック化・グループ化による職員の協働体制の促進		
項目 (担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
学習指導 (教務部)	・学力向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲を高めるような授業に心がける。 ・家庭での学習習慣を身につけさせる。 ・基礎・基本を定着させ、発展的な学習に取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における達成感や満足感を大切にし、知的好奇心や向上心を育てる。 ・新学習指導要領で求められている、主体的、対話的で深い学びを実現するために、カリキュラム委員会と連携して授業改善を推進する。 ・日常の宿題や週ごとの課題等で、家庭での学習を具体的に指示し、家庭学習に取り組ませる。 ・課題の実施状況や指導方法を情報交換し、常に改善を心がける。 ・授業の予習復習や日常の宿題を励行させることで、基礎・基本を定着させる。また、発展的な学習内容を具体的に指示することで、確かな学力を育成する。
	・授業規律の徹底を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を大切にさせる。 ・学習環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・わかる授業、参加する授業を心がけ、授業への意識を高めさせる。 ・授業に集中できない生徒に対しては、組織的、段階的な指導を行う。 ・担任会、学年会、教科主任会との連携や協力で、学習環境の整備に取り組む。
国際理解 (国際理解部)	・国際交流事業の推進と発展を図り、生徒の国際感覚を高める	・メントーンガールズセカンダリーカレッジとの交流の継続	・オンライン交流等を計画し、学校間交流を継続する。
		・Global Frontier 研修の実施	・委託業者と連携し、研修内容を充実させ、生徒の「国際理解」学習の拡充を図る。
		・中村地球市民教室の実施	・事前LTで動機付けを行い、NICと協力して内容の充実を図る。
		・生徒国際交流委員会の活性化	・委員が主体となって活動し、全校生徒の意識向上に寄与できるように指導する。
		・留学生の受け入れ	・AFS・ホストファミリーと連携し、円滑な学校生活を送る支援を行う。 ・多くの生徒と交流できる機会を設ける。
		・バンコクとのオンライン交流	・学校全体で取り組めるよう計画する。
		・JICA 訪問の実施 (国際理解コース)	・ベトナム研修旅行の事前学習の1つとして計画する。
		・ベトナム研修旅行の実施 (国際理解コース)	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒や引率者の安全を確保できるよう現地の情報収集に努める。 ・異文化に触れ国際性を身につける機会となるよう研修内容の充実を図る。
・エンパワーメントプログラムの実施 (国際理解コース)	<ul style="list-style-type: none"> ・ベトナム研修中止の場合に行う。 ・高度な発信型の英語力及び異文化理解力を養えるよう研修内容の充実を図る。 		
総務 (総務部)	・防災体制の整備	・防災委員会の活動を全校に向けて発信する。	・身近なところにある危険を把握し、災害時に対応できる力を養うことを主眼に防災委員会で取り組み、防災の重要性について全校生徒に発信する。
	・PTAと学校の相互理解	・PTAが学校活動に参加する機会を確保する。	・PTAと学校が一体となって取り組める行事を精選し、創意工夫をすることで、充実したPTA活動を確立する。
図書 (図書部)	・学習情報センターとしての機能の充実	・図書資料の目録を整備する。	・図書資料の分類記列を適切にし、その目録を整備する。 ・学習の場としての機能を高めるための創意工夫を行う。
	・読書センターとしての機能の充実	・生徒の図書貸出利用増を図る。	・生徒の読みたい図書資料を中心に収集する。 ・展示・広報・企画で読書を喚起し、生徒の世界が広がる手助けに努める。
		・ビブリオバトルの充実を図る。	・ビブリオバトル充実のため、教員が創意工夫を行う。
生徒指導 (生徒指導部)	・規律正しい生活習慣の確立	・遅刻者を減少させる。	・遅刻が多い生徒は、学年団と協力しながら「早出指導」などを実施し、基本的な生活習慣を身につけさせる。
		・身だしなみを向上させる。	・常に身だしなみを整えるよう指導する。特に化粧やスカート丈を短くする行為をなくすように指導する。
		・通学マナーの向上を図る。	・「【0の日】朝の交通安全指導」や「下校時交通安全指導」を通して安全に通学するよう指導する。
	・いじめの早期発見	・いじめアンケートを有効活用する。	・必要に応じて担任が面談し、生徒指導部と学年会で連携して解決を図る。

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
進路指導 (進路指導部)	・より高いレベルの進路目標実現にむけて早期の進路目標設定と学力の向上	・進路指導体制を充実させる。	・担任、学年、教科と連携を図り、進路検討会での個別検討を一層充実させる。その際進路希望調査や実力テスト、模擬試験のデータなどを積極的に活用する。また、入試説明会などで得た情報の共有化を図る。
		・キャリア教育を推進する。	・LTや「総合的な探究の時間」を活用して、生徒の進路や職業に関する意識を継続的に喚起する。また、長期休業中のインターンシップへの参加を広く呼びかけ、積極的な参加を促す。
		・補習、模擬試験を充実させる。	・進路実現に向けて、教科や学年と連携して平常・夏季・冬季補習の講座内容の充実を図る。また、模擬試験の目的を学力養成と位置付け、受験を積極的に勧めるとともに事前事後の指導を充実させる。
保健 (保健部)	・校内環境美化と生徒の意識高揚	・美化週間など強化期間を設け、校内美化、ごみの減量を呼びかける。	・呼びかけの具体案を探り、ごみの減量を図る。 ・環境美化への意識を高め、清掃の徹底に結び付ける。
	・健康観察と教育相談への連携	・生徒の心身の問題点を早期発見し対応する。その記録を残し、継続的な支援に繋げる。 ・必要な生徒に教育相談を結び付ける。	・保健室利用の数や理由の情報交換を密におこない、生徒の健康状態の把握に役立ててもらう。 ・必要な生徒を早期に把握し、相談体制へ結び付ける。 ・カウンセラーと担任、学年、関係部署、関係機関と連携し、生徒へのサポート体制を整える。
特別活動 (特別活動部)	・生徒会活動の充実	・議会、各委員会を活性化し、生徒の生徒会への参加意識を高める。	・議員の参加意識を高め、クラスにおいて学校行事に関する議論の活性化を図る。 ・生徒会執行部と議員の意思疎通を密にし、学校行事を円滑に行うことができるようにする。 ・機関誌や広報を発行し、生徒への情報発信を行う。
		・学校祭などの行事を生徒が中心となって実施する。	・生徒が積極的に意見を出し、主体性を持って行事の運営に当たるよう指導する。
		・部活動の活性化を進める。	・部室や活動場所の環境整備に努める。
		・ボランティア活動への参加を進める。	・エコキャップ運動やあいさつ運動、募金活動を行い、ボランティア活動への参加意識を高める。
第1学年	・自ら学び深く考え主体的に行動する生徒の育成	・基本的な生活習慣を身につけさせる。あらゆる不調の兆候となる「遅刻」「早退」「欠席」に対して細やかな声掛けをすると共に、必要に応じて面談を行い、学校に対する意識がそれることのないよう生徒の様子を観察する。生徒指導部・教育相談担当と連携を図る。 ・適切な身だしなみの徹底。 ・予習復習などの家庭学習を定着させ、それらによって自ら学習課題を見つけ、授業に対する自主的・意欲的な参加を促す。	・教科担当、担任レベルの指導と並行し、生徒指導部とも連携を図り、早出指導などの生活を改善させる指導を行う。また家庭との連絡を密にし、生徒の生活状況の把握に努める。普段の個人指導に加え、全体集会時等に学年担任団で指導する機会を作る。 ・「遅刻」「欠席」「早退」と共に、学校に意識が向きにくくなってきた生徒の兆候として、「身だしなみの乱れ」が挙げられる。その生徒が今どのような悩みや思いを抱えているのかを常に傾聴の姿勢で向き合い、対話を伴いながら指導をしていく。また、学校生活においてふさわしい服装を徹底させるため、始業時においても各教科担当者から声掛けをしていく。 ・決して「受け身」ではない学習への取り組みとして、授業前の予習を徹底させ、どの授業に対しても自ら予め課題を準備した状態で授業に臨み、主体的に取り組ませる。
第2学年	・進路目標の明確化と学力向上	・進路目標を明確にし、目標を実現できるよう学習に主体的に取り組ませる。	・LT、学年集会、個人面談などを通じ、進路について真剣に向き合えるよう助言をする。また、進路実現に向けた具体的な方策についてアドバイスする。
		・考査結果や模試結果を活用し、実力を客観的に把握させる。目標達成に向けての対策を考えさせ、実践につなげる。	・考査結果や模試結果を分析させるとともに、各担任で面談を行うことで、適切な目標設定ができるよう助言をする。また、進路ガイダンスや学部学科説明会などを踏まえながらオープンキャンパスへの参加を促す。
	・中心学年としての自覚の育成	・学校行事や部活動等に積極的に取り組み、中心となって活動できるよう、指導、助言する。 ・下級生の模範となる行動をさせる。	・生徒が率先して計画を立て、学校行事や組織運営を行えるように助言をする。また、中心としての自覚とリーダーシップを持つ人材の育成に向けて、各リーダーに向けて助言や指導を行う。 ・身だしなみ、基本的な生活習慣、学校行事への取組など、上級生として下級生の見本となる行動ができるように助言や指導を行う。

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
第3学年	・人間力の育成と主体性の実現	・積極的に学校行事等に取り組ませる。	・学校祭などの学校行事にルールの中で積極的に参加させ、進路実現との両立を実現できるよう支援する。
		・規律ある生活態度で下級生の模範となるようにさせる。	・日常生活からモラルやマナーを守らせ、下級生の模範となる行動を促す。
	・進路実現	・進路実現に向け、妥協せず最後まで努力させる。	・情熱と忍耐で最後まで努力し、安易に進路決定しないように指導する。また、進路決定した生徒も雰囲気づくりに協力するよう働きかける。
		・個々の希望に合わせた進路指導ができるように進路指導部と協力する。	・進路検討会等で最適な出願指導を模索し、生徒個々によりよい指導ができるよう取り組みを強化する。
勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止	・職員の健康管理	・勤務時間を適正に管理する。 ・業務量の平準化を図る。	・愛知県立学校の教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則・方針に基づき、在校等時間を客観的に把握し、時間外在校等時間の上限（1か月45時間、1年360時間）が遵守できるよう業務改善・分担の見直し等を行う。 ・県立学校における長時間労働による健康障害防止のための面接指導実施要項に基づく在校時間等の状況記録の集計結果等を衛生委員会で確認し、1か月の時間外労働が80時間を超える教職員に対して、そのつど面接指導の希望の有無について確認を行い、教職員の健康障害防止に努める。 ・分掌のブロック化及びグループ化を機能させるとともに、正担任と副担任の間の業務量の平準化を進める。
その他	・中村高校の特色づくり	・国際理解教育を充実させる。	・普通コースの生徒も対象とした「グローバルフロンティア研修」を新たに実施するとともに、従来の取組を整理し、国際理解教育をさらに充実したものとする。 ・グローバルルーム（視聴覚教室）やタブレット等のICT機器を有効活用して国際交流を進める。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導における学力向上のための取り組み ・生徒指導における規律正しい生活習慣の確立 ・進路指導における一層の進路意識の育成 	